

J R 芦屋駅南地区のまちづくりに関するインタビュー

J R 芦屋駅南地区のまちづくりってどう思う？

詳しくはこちら→
問い合わせ
都市整備課 ☎38-2074



J R 芦屋駅南地区では、交通課題を解決するため、交通広場や地下駐輪場の計画や再開発ビルの建設、市民の皆さんの居場所となる公益施設も予定し、J R 西日本と協力して駅舎のリニューアル工事も進めています。

しかし市議会からは、将来の人口減少に加え新型コロナの影響などでの財政悪化などを理由に、根本的な計画の見直しを求められています。このような現状について、さまざまな立場の皆さんにご意見を伺いました。

南側に賑わいが出て、駅の周りにも 新たないい流れができます。

モンテメールが新しくなり、私の周りでもとても人気があります。再開発ビルができると、駅の北側だけでなく、南側に賑わいが出て、駅の周りにも新たないい流れができ、経済効果も生まれ芦屋市としてメリットが大きいと思います。駅南はアクセスがよくて便利な場所なので、自習室などができるととてもありがたいです。私たち若い世代が利用できる市の施設はあまりないと思うので、そうしたものができると嬉しいです。



あしや部～芦屋在住高校生市民活動プロジェクト～
伊藤里彩さん

50年、100年先のまちを見据えた 事業を進めることが必要。

交通の安全を守るためには、車と自転車と人の動線をそれぞれ分けることが必要な条件なので、ペDESTリアンデッキや地下駐輪場は必ず設置すべきです。

駅の北側の開発事業が成功したカギは「防災」と「商業の発展」。この2点の大きな目標に向かって皆さんが役割分担をして進めたことだと思います。再開発していなければ、阪神・淡路大震災の被害はもっと甚大だったと思います。芦屋駅の駅前には「ニーズ(需要)」と「ポテンシャル(可能性)」があります。その価値を理解し、目先の利益やその場しのぎの開発ではなく50年、100年先のまちを見据えた事業を進めることが必要不可欠です。



芦屋交通安全協会会長・(株)竹園代表取締役社長 福本吉宗さん

地権者としては、一日も早く開発が終わり 心穏やかに暮らせることを期待。

昭和21年から都市計画の制限を受け続けている我々地権者としては、一日も早く開発が終わり、心穏やかに過ごせる日々が来ることを期待しています。平成5年から検討している計画に、今年度から規模の縮小や手法の変更を求める意見が出ていると聞きます。柔軟に検討することは良いと思います。私たちにとって、特に重要なことは、地域内で生活や商売の継続ができる事です。また、市内に恒久的なバスターミナルが一つもない現状を考えると、駅の南側には整備をする必要があると思います。再開発ビルは財政面から考えると高層化するほうが良いとの意見もありますが、景観に配慮してなるべく高さを抑えることを希望します。

J R 芦屋駅南地区
まちづくり協議会会長
喜田清左衛門さん



J R 芦屋駅南地区 令和8年度(2026年度) 完成イメージ



再開発ビル
4～11階 住宅
3階 公益施設
1～2階 店舗
地階 駐車場

自家用車送迎用
ロータリー

←大阪方面

J R 芦屋駅

※今後変更となる場合があります

安全・安心・快適・便利な「まちの玄関口」をつくり お客さまの笑顔に繋がるリニューアルを。

J Rでは市内唯一の駅として近隣のお客さまをはじめ、乗り継ぎのお客さまにも多くご利用頂き、また併設する商業施設でのお買い物にもお立ち寄り頂いています。芦屋は、自然や美しい建築物に囲まれ、文化的な人が多い印象ですが、駅では気軽に挨拶を交わしてくれる気さくな一面も感じています。今は工事でご不便をお掛けしていますが、安全・安心・快適・便利な「まちの玄関口」をつくり、お客さまの笑顔につながるリニューアルを考えています。なお、芦屋の皆さまから頂いたメッセージと写真を駅南側の仮設の壁面にて紹介させて頂いております。

J R 西日本神戸建築工務所長
伊藤田裕さん



J R 芦屋駅駅長
上野亮さん

整備とともに周辺の賑わいが増し、安全で 便利な駅前になることを願います。

芦屋駅の改良工事では、エスカレーターを設置、トイレのリニューアル、内外装や店舗の一新で、バリアフリーでより快適な駅に生まれ変わります。南側の外観は、開放的でまちと調和するデザインにすることで、皆さまから愛される場所になることを期待しています。駅と駅前の整備で周辺の賑わいが増し、さらに安全で便利な駅前になることを願います。芦屋は自然と歴史的な建物、それに新しいものがうまく調和していて散歩するのがとても楽しいまち。いつの時代も憧れのまちであり続けてほしいと思います。

再開発の事業が進み、駅前の機能が高まり 便利になることを期待。

芦屋は気品がある優雅な街という印象ですが、駅の南側は狭い所にタクシーもバスも一緒に詰め込まれている状態です。駅前はまちの顔です。再開発の事業が進み、駅前の機能が高まり便利になることを期待しています。まちの発展とともにタクシー事業のサービスも発展していくと思います。高齢者からお子さま、体が不自由な人など、いろいろなお客さまが気軽に利用してもらえる公共交通でありたいと思っています。



兵庫県タクシー協会会長 吉川紀興さん